

## 自己点検・自己評価の概要

### 1. 教育目標

- (1) アクティブラーニングができる授業づくり（継続）
  - ①協同学習技法の定着
  - ②シミュレーション教育の充実
- (2) カリキュラム改正に向け、教育内容を精選し、試行プログラムの作成・実施
  - ①領域横断する学習内容の決定
  - ②学校裁量の実習内容の検討
- (3) 授業評価の定着・活用
  - ①授業評価分析と分析結果の共有化
- (4) 看護教育協議会と連動した教員の体系的研修の実施
  - ①新任教員
  - ②中堅層の教員研修
- (5) 学習困難者の支援体制を強化する（継続）
  - ①専門基礎分野の課外授業を実施・評価
  - ②専任教員による支援体制を定着させる。
- (6) 地域（病院等）と連携した看護基礎教育の実施
  - ① TA を派遣している実習施設との情報交換会を実施
  - ②専門職連携教育の試行
- (7) 放送大学との連携協力体制を創る
  - ①キャリア支援担当教員との定期的な面談
  - ②登録している学生間での情報交換

### 2. 財政体質の安定化

- (1) 毎年の収支を見極めた予算計画を立てる。
- (2) 財源確保への取り組み
  - ①退学者、休学者の増加を抑える。
  - ②スクールカウンセラーの活用を推進する。
  - ③受験生の確保
    - ・ 広報活動の工夫（高校生を対象に模擬授業を実施）
    - ・ 高校の進路指導教諭に対する学校説明会の実施
    - ・ 選抜試験の方法を工夫。

### 3. 組織構造の改善

- (1) 効率的な学校運営
  - ①学内組織の見直し
  - ②事務分掌の見直し
- (2) 学内委員会活動、自己点検・自己評価委員会、教育課程編成委員会、学校関係者評価

各自の業務目標管理の学校組織との関連性を認識し定着を図る。

(3) ワークライフバランスを実施（継続）

- ①日常業務の見直し
- ②効率的な会議運営
- ③情報伝達の効率化
- ④有給休暇の計画的取得の推進

### 3. 各評価指標の概要

#### 指標 I：教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2) 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか。	4
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

課題：①本校における看護教育の特色をより鮮明にする。（継続）

18歳人口が年々減少していく中で、看護師を目指す若者を定員数確保することは、今後一層厳しくなることが予測される。看護師を目指す若者に選ばれる学校を目指して、専門学校としての本校の特色をより鮮明にしていくことが必要。

②教員の資質向上（継続）

授業評価を確実に実施し、組織的な教育方法の工夫・改善が必要である。

③自己点検・自己評価の結果を踏まえた 効率的運営と教育課程編成委員会活動の活性化

・社会のニーズを踏まえた学校の将来構想および臨床現場との緊密な関係性の中で、今後の学校教育の在り方を検討していくことが必要。

④保護者との連携を密にして教育理念等に係る効果的な周知の方法を検討する必要がある。

改善策：①2019年度から運営会議において、2か月に1回程度のペースで学内における検討をスタートさせる。

②看護教育協議会が作成した「キャリアラダー」に基づいて体系的な教員研修を計画実施する。

・授業評価を分析し可視化し、より効果的な教育方法を組織的に検討する。

③自己点検・自己評価の結果を教職員が共有する。

・課題1の解決策と同様

④効果的な周知方法の検討をする。

・後援会総会時に建学の理念及び教育目的の説明を行うと同時に教育現場が抱える課題を共有する。（5月）

## 指標Ⅱ：学校経営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 目的に沿った運営方針が策定されているか。	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか・有効に機能しているか。	4
4) 人事、給与に関する規程等は、整備されているか	4
5) 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4
6) 業界や地域社会等にコンプライアンス体制が整備されているか。	4
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4

課題：①全教職員が学校経営に関わっているという認識を持つことが必要。

②教育活動のPRを推進。

改善策：①湘央学園理事会への報告した「年度の事業計画」及び「行動目標の達成状況」の報告を教務会や職員会議で提示し、自身の業務に反映できるようにする。

・各自の業務計画及び委員会活動との連動性を図るように屋根瓦方式で指導助言を行う。

②実習施設と看護基礎教育の在り方等を相互理解する場を設ける。

・非常勤講師とのコミュニケーションや学校の情報提供を図る。

・広報会議を復活させ、活動の幅を広げる。

## 指標Ⅲ：教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか。	4
2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
3) 学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5) 関連分野の企業・関係施設など、業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか。	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）が体系的に位置づけられているか。	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか。	4
8) 職業教育などに対する外部関係者からの評価を受け入れているか。	4
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるのか。	4

課題：①教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などについて

- ・マトリックスの完成と教育内容の精選を実施することができた。今後も学習内容を検証することが課題である。

②教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保について

- ・実技科目の授業内容

技術テストの導入については検証を積み重ねていく必要がある。

- ・実習の内容

平成28年度から実施してきた卒後1年目の卒業生(浦看カフェ)に実施したアンケート内容等を引き続き検討していく。

- ・卒後3年のラダーをふまえた看護技術到達については、引き続き検討課題と考える。

③関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）の体系的な位置づけについて

- ・TAによる授業の成果を研究としてまとめることは今後継続的に検討する。

④授業評価の実施・評価体制について

- ・実習評価はルーブリック評価で体系化できたが、見直し等は継続検討する。

- ・授業科目に関しては導入に向けて引き続き検討する。

⑤職業教育などに対する外部関係者からの評価について

・2019年度は、実習施設へ卒業時の技術到達度調査・看護師に求められる実践能力調査を実施した。調査結果は、今後のカリキュラム評価・開発に活用していく。

改善策：①理念を踏まえ引き続き教育内容の検討を継続的に行う。

- ・看護教育協議会主催の平成29年度・30年度の研修（協同学習）での学びを今後も教育方法へ取り入れて実践していく。

②2019年度も各専門領域の科目内容や指導方法の現状と課題についての検討を行い、効果的な学修方法を実践していく。

- ・各領域の看護過程の令和2年（2020年）講義進度は、領域の担当者と計画通り実施できるように調整する。

#### 指標Ⅳ：学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 進学率や就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 退学率の低減が図られているか	4
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4

課題：①休学者のほとんどが「メンタル面の問題」「学習への不安」を抱えている。

- ②卒業生・在校生の社会的な活動及び評価と卒業後のキャリア形成への効果の把握について今後、検討を要する。卒業時の技術到達度を把握し、卒業後のキャリア形成と比較する必要がある。
- ③退学理由が「進路変更」であるが、休学理由は「学習への不安」「単位未履修」などもあり、学習への支援を個別的に実施する必要がある。

改善策：①スクールカウンセラーの配置を今年度から担当者を追加し、2回/月に変更する。

- ②同窓会と連携して卒業後のキャリア調査を実施する。
  - ・卒業生の就業先での就業状況を把握し、看護基礎教育での課題を明確にしていく。技術到達度を把握する
  - ・卒業後のキャリア形成の効果の把握については、アンケートなどを実施し継続的に検討していく。
- ③キャリア教育の充実
  - ・看護職としてキャリアを積むことの意義を指導するために、看護協会や認定看護師など講演会の計画する。
  - ・学習支援を個別・若しくはグループ単位で継続的に実施、学習支援を強化する。

## 指標V：学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
2) 学生の健康管理を担う組織体制はあるのか	4
3) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
4) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
5) 保護者と適切に連携をしているか	4
6) 卒業生への支援体制はあるか	4
7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
8) 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
9) 基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	4
10) 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援等）	4
11) 進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	4

課題：①社会人ニーズを踏まえた教育環境の整備について、把握が必要である。

- ②病院や市町村奨学金貸与については、把握できていない。
- ③他の専門学校と連携した教育の検討が必要である。

改善策：①社会ニーズを踏まえた教育環境では、必要時対応する。

- ②奨学金貸与と学生の実態を把握する。（学生が直接契約している病院等の奨学金の利用状況）
- ③新カリキュラムの内容として次年度試行プログラムを作成する。

## 指標Ⅵ：教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 施設・整備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

課題：①施設整備について

- ・学生の荷物置き場として1階の倉庫にラックを設置しクラスごとに使用しているが煩雑になりがちである。
- ・Wi-Fi環境を全館対応できていない。
- ・教職員PCに不具合が生じる事が出て来ている。

②環境整備について

- ・トイレ清掃に関し引継ぎの期間に清掃方法の引継ぎがうまくいかず清掃が行き届いていない状況がある。
- ・国家試験対策期間中、1年生2年生が3年生と接触しないよう対策をとったが、視聴覚室・演習室の利用や実習の発表の教室の確保、移動の際の導線や清掃を行うか否かなど混乱が生じた。
- ・定期的な清掃チェック方法。
- ・定期的な清掃チェック方法

改善策：①1階倉庫ラックに個人ボックスを設置できるか検討していく。

- ・年度計画をもって順次設置していく。
- ・次年度予算計上をして入れ替える事を検討する。
- ②次年度も教員の声掛けを継続していくが、トイレの清掃に関し業者依頼も検討する。
- ・学内にて検討しマニュアルを作成していく。
- ・清掃方法の指導やチェックのため、教育環境委員会と学生美化委員の連携を密にする。

## 指標Ⅶ：学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生募集活動は適正に行われているか。	4
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4
3) 学納金は妥当なものとなっているか。	4

課題：①入学時アンケート調査結果と現状の学生募集活動とを照らし合わせた結果、本校が行っている活動は、

希望者の意向に沿って適切に進められているが、社会経済の上向きに伴い求人倍率の上昇などもあり、既卒者の受験者数が減少傾向にある。それを踏まえて高校生の受験者数を増やすための工夫が必要である。

また、入学生が本校を志望した理由を踏まえ今後更に教育内容の質を高め教育環境の整備充実に向けていく必要がある。

改善策：①入学時アンケート調査結果を踏まえ、進路選択の指標として重要な学校案内パンフレット、学校ホーム

ページ、オープンキャンパスを充実させ入学希望者が必要な情報を詳細に伝えていく為にも、入学時アン

ケート調査を継続し、回答項目に適宜、修正・追加を加え充実させていく。

### 指標Ⅷ：財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3) 財務について会計検査が適切に行われているか。	4
4) 財務情報公開の体制整備はできているか。	4

課題：予算執行の無駄をゼロに近づける。

改善策：適切な予算執行の確認を行うために毎月執行状況を確認する。

### 指標Ⅸ：法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2) 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
4) 自己評価結果を公表しているか。	4

課題：①個人情報の取扱いについての学生個々の認識が十分ではない。

対応策：①SNSに関する特別講義は継続する。

・インシデントに係るケース発生時にはその都度、丁寧に説明を繰り返す。

### 指標Ⅹ：社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
3) 地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

課題：①1年生の自主的なボランティア参加は昨年度と比較し増加したが、2年生3年生の参加が少ない現状が続いている。

改善策：①ボランティア活動を行った学生が、主体的にボランティア活動の意義・活動内容を伝える場を増やし、学校全体で学生主体のボランティア活動を支援する。

・教職員の取り組みとして、1年生全員が体験できる教科外ボランティア活動を継続し、実習施設や地域との

連携を図りながらボランティア活動先の拡充を図る。また、学生ボランティア委員と適宜相談しボランティア周知方法の検討を行っていく。

- ・本年度の1年生のボランティア参加状況を継続的に確認し、教科外ボランティア活動・自主的なボランティア活動の取り組みを客観的に評価していく。

### 指標Ⅺ：国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	4
2) 学内での適切な体制が整備されているか。	4

課題：①国際看護の授業を通しての国際交流は5年目を迎え、関係機関へ認知されるようになってきた。今後はこの体制を持続して、成熟させていく。

改善策：①留学生への受け入れについては、法的規制を順守することが困難な状況があり、現時点では時期尚早と考える。

### 指標Ⅻ：特別活動等

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) クラブ活動特別活動を奨励、支援しているか。	4
2) 保護者会等と連携した活動を推進しているか。	4

課題：①手話活動の拠点を学内だけでなく、地域の聴覚障害のある方とのコミュニケーションを積極的に取る場を設ける必要がある。

②クラブ全員の参加は、時間割の都合や放課後の技術演習等があり毎週の学習会参加が困難な時期がある。

改善策：①地域に学生の活動を理解し、受入れる場があるか情報を取る。

②夏期休暇期間中に学生が参加できる正課外カリキュラムを検討し、実施する。

- ・学校行事に日頃の学習を披露し活動の場を広げる。